

# 水平型宇宙港の実現に向けた取組と課題

令和6年7月8日  
宇宙輸送小委員会提出資料

大分県

## Sierra Space社との取組（宇宙往還機の着陸）

- ✓ 2022年2月、宇宙往還機Dream Chaser®の着陸拠点として、大分空港を活用するための検討を行うパートナーシップを、兼松株式会社とともに締結。同年12月には日本航空株式会社も参画。
- ✓ Dream Chaser初号機は米国での開発を完了し、NASA試験施設での主な宇宙環境試験を終え、ケネディ宇宙センターで打上げ前の最終準備を実施中。2024年内の打上げを予定（米国で打上げ、米国に帰還）。



© Sierra Space

## その他

- ✓ 衛星データ活用等による宇宙ビジネスへの参入支援や人材育成等を継続的に実施。

# 大分空港の宇宙港としての活用に向けた主な課題

## ① 大分空港を水平型宇宙港とするための基盤整備

- ✓ 多様な宇宙輸送サービスを我が国で実現させるには、新たな宇宙輸送ビジネスに対応し、宇宙機の水平離着陸の拠点となる水平型宇宙港の整備が必要。
- ✓ 企業ニーズに加え、将来的な高速二地点間輸送の実現等を見据えると、既設空港を水平型宇宙港として活用していくことは重要な選択肢。

⇒大分空港（国管理空港）において、既存の航空運送事業等と調和した形で、宇宙往還機の帰還等の宇宙活動を実現するための技術確立や施設整備等が必要。

（例）往還型宇宙港技術：宇宙機の帰還に際しての管制、安全確保、環境保護、帰還後の整備等を行う技術 等

## ② 大分空港を活用した民間企業による宇宙ビジネスを後押しするための制度環境整備

- ✓ 現行の宇宙活動法等の関係法令では、宇宙機の水平離着陸等の新たな宇宙輸送ビジネスの形態や既設空港の宇宙港としての活用等に対応できていない。

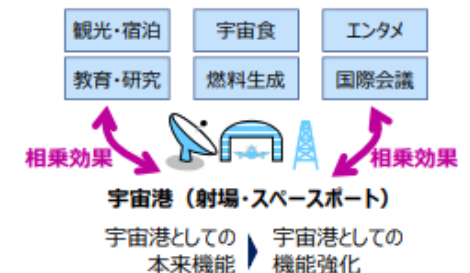
⇒大分空港において、既存の航空運送事業等と調和した形で、宇宙活動を実現するための制度環境の整備が必要。

（例）宇宙活動法、航空法、空港法 等

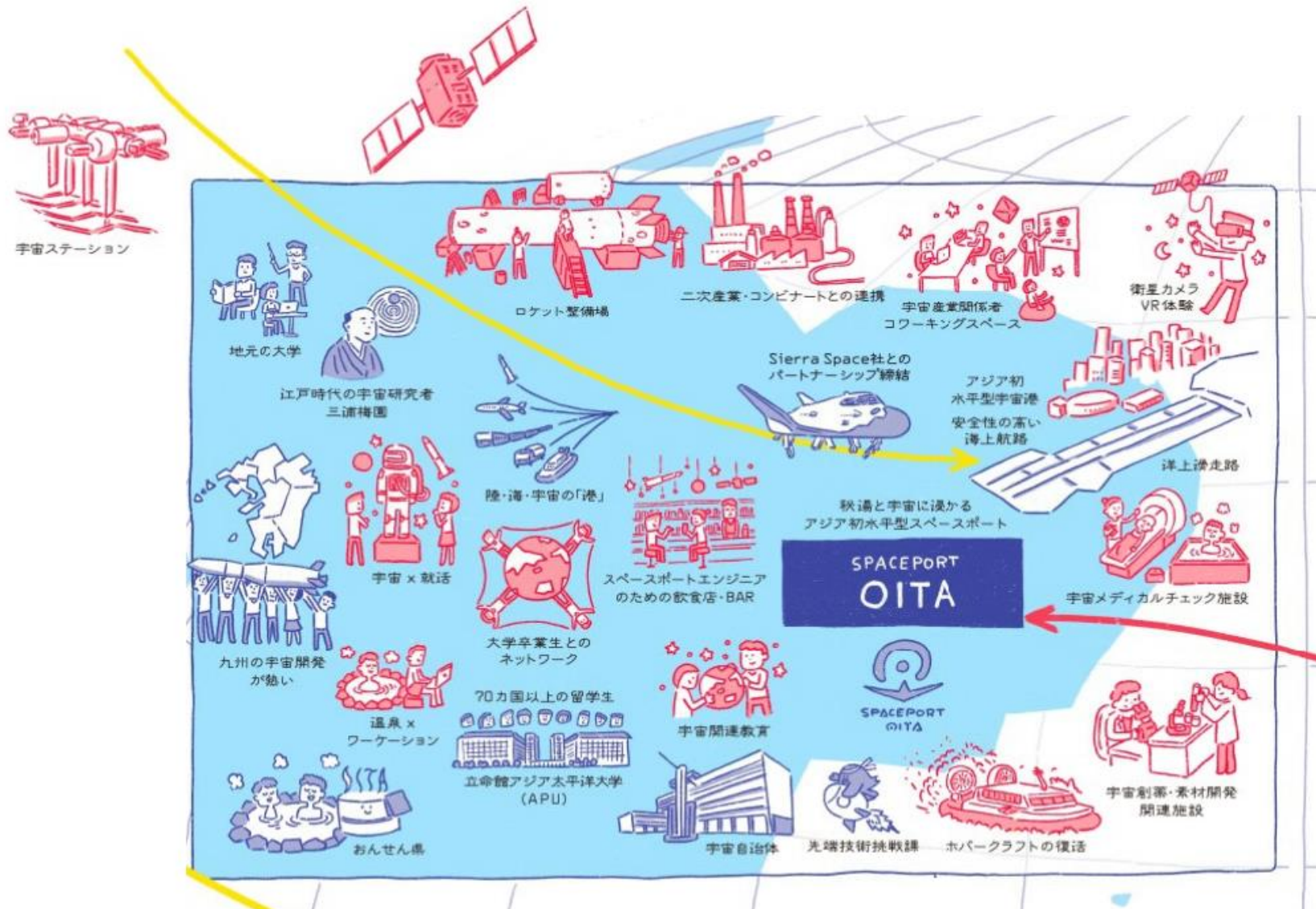
## ③ 宇宙港を核としたエコシステムの形成

- ✓ 宇宙港を核として価値創造や地方創生につながるエコシステムを形成するには、その周辺で宇宙関連ビジネスや研究・教育等の機能が相乗効果を発揮しつつ、集積・発展していくことが必要。

⇒県内への宇宙関連ビジネス・企業の誘致や地場企業の参入促進、人材育成等が必要。また、近隣県等の地域大での連携も必要。



# 「スペースポートおおいた」のイメージ



出典：一般社団法人 Space Port Japan 資料を大分県で加工